

# 令和4年度 NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 事業報告書

## 1. 総括

令和4年度はコロナの見通しがつかない中で始まったが、各地域の会員団体についても講座開催ができるようになり、指導者養成講座や水辺関連イベントが徐々に回復してきた。5月には埼玉県の大宮でのリスクマネジメント講座、MIZUBE リング関連でも、10月には信濃川やすらぎ堤の川イベントでEボート乗船会、東京都の汐浜運河ではEボートによる防災訓練レースが開催された。東京都の「子どもを笑顔にするプロジェクト」の一環として、小学生46名がEボート体験とともに旧中川で荒川ロックゲート通船も実施し、RAC指導者によって、水辺の体験プログラムを巣鴨の子どもへ提供した。



写真1. 巣鴨小学校 Eボート体験

また、WITH コロナ・アフターコロナに向けてRACの全国大会やRACフォーラムについても3年ぶりに対面で開催することができた。東京で開催された全国大会では、江戸東京の川の価値再発見をテーマに歴史・文化等を満喫。RACフォーラムではRACのあるべき将来像からのロードマップを検討し、次年度以降に取り組むべき方向性について共通認識を再確認する機会となった。

### 会員の入会状況

種別	団 体		個 人	
	R3	R4	R3	R4
正会員	70	75	2	6
一般会員	30	30	1	0
賛助会員	0	0	1	0
計	100	105	4	6

(R5年3月31日現在)

## 2. 会議

- (1) 理事会 — 令和3年度の活動報告・会計報告、令和4年度の活動計画・収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時] 令和4年5月28日(土) 13:30~14:30 / 東京都 (WEB会議併催)

[開催場所] 国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区)

- (2) 総 会 — 令和3年度の活動報告・会計報告、令和4年度の活動計画、収支予算等についての報告及び役員の選任を議決した。

[開催日時] 令和4年5月28日(土) 14:30~17:00 / 東京都 (WEB会議併催)

[開催場所] 国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区)

- (3) 常任理事会 ー 業務執行に関する検討や講座及び資格の認定審査を行った他、下記の日程で業務進捗状況、財政状況の確認等を行った。

[実施日] 第1回 令和4年 7月 6日  
第2回     "     11月 11日  
第3回 令和5年 1月 27日  
[場 所] ZOOM 会議

(4) 専門部会・委員会

下記の専門部会ごとに主な事業を推進した。

① 企画総務部会

コロナ禍により、常任理事会は全て WEB 開催となった。全国大会は令和4年10月に東京で、RAC フォーラムは令和5年3月に東京にて、いずれも3年ぶりに対面形式にて開催し、交流できることの重要性を再確認した。

RAC ホームページのリニューアルに合わせて、コンテンツの整理、情報更新の方法を改善した。また、前年度より仕分入力を税理士事務所に依頼し、内部作業の軽減がみられるが、間接経費負担の増大による経営圧迫が課題となっているので、再検討が必要な状況となっている。

② 人材育成部会

各地で講座開催が回復傾向にあり、インストラクター養成会も久しぶりに開催できた。トレーナー更新講習会も開催して RAC 活動の核になるトレーナーの確保維持をしつつ、新たなトレーナーの人材を各団体から推薦をお願いしている。

・RAC リーダーの養成と育成

RAC 養成会は毎年確実に実施している団体の他にアシスタントリーダー講座を開催してくれる団体もある。アシスタントリーダーからリーダー登録への道筋の理解や OJT 制度の理解が必要。

・RAC アシスタントインストラクター講座新設のためのトライアル講座

指導者（リーダー）から指導者育成のインストラクターつくりのため、1日講座の RAC アシスタントインストラクター講座を新たにつくるためトライアル講座を3月に北九州市で開催できた。

・トレーナー地域ミーティングを行い各地のニーズを知る

九州と岩手でトレーナー地域ミーティングを行い地域の現状や RAC 本部の状況など情報交流した。

・RAC トレーナー更新講座、トレーナー交流会の開催

トレーナー更新講習会を RAC フォーラムと同時開催して更新対象ではないトレーナーの参加も得て、トレーナーの交流も図ることもできた。

### ③ 学校連携部会

今年も WEB を用いて会議を行った。WEB 会議では、議論中心でなかなか実践へと進まない現状がある。各委員は、長引くコロナ禍のため川の活動やイベントなども制限を受け窮屈な思いを感じているが、人材育成が進まない隘路について忌憚なく意見を述べ合った。

- ・近年は、災害復旧の遅れから川の活動を充分に行えない地域がある。
- ・教育現場では、専門的なところは専門家に頼む傾向がある。
- ・学校リーダーなど有資格者に対するフォローアップが十分ではない。
- ・学校との連携の仕方は様々であるが、やはり敷居は高い。簡単ではない。
- ・人材育成は予算がないと出来ない。
- ・川の活動を実践する学校は定着しているが、資格取得の希望やスキルアップ者は少ない。

各委員は、それぞれの地域で川の活動を広げる努力をしているが、持続可能な活動へとつなげるには、課題を整理して組織的に取り組む必要があることを共有した。

- ・現時点では「学校連携コーディネーター」の資格は、学校と連携する上では必要である。
- ・学校と活動する際に「学校連携コーディネーター」に対する支援があれば取り組みやすい。
- ・学校リーダー養成講座の際、WET 講習会も行うなど日常的に川の活動を実践出来るように取り組んでいく。
- ・RAC 事務局や河川財団と協力して、学校現場で使える教材の開発、そのためのモニター校との実践を行う。※現在、事業が進行中。

学校連携部会では、持続可能な人材育成のためには、有資格の川仲間と一緒に川の魅力を続けながら、次の川仲間を引き継ぎながら世代交代していくことを到達目標にしています。

### ④ 組織強化部会

- ・広報・営業ツールなどを検討する予定でいたがコロナ禍もあり具体的な行動ができていなかった。
- ・東京都キャンプ協会を通じて、東京都教育庁へ RAC の説明をおこなった。その流れで「子どもを笑顔にするプロジェクト」への参画が可能になり、1 校であるが E ボートの体験を提供する機会ができた。
- ・その他百貨店のスポーツ用品コーナーでの展示などのお話をいただいたが、コロナの再拡大で機会を逸してしまった。引き続きこれまで RAC には無かったチャネルの共労や受託などの機会を獲得していきたい。
- ・会員向け行事を外部へのアピールする場として機能させることにより、川の体験活動や RAC のことをより広く知ってもらえるようにする方策について検討した。

## (5) 専門委員会

### ① 審査認定委員会

- ・講座開催審査や支援条件整理、指導者修了確認・認定等を行った。

## ② 安全対策委員会

- ・水辺体験活動での事故等の発生防止に向けて講座等の実施体制等を注視した。
- ・川育ライフジャケットの認定ガイドラインの見直し作業に着手した。

## 3. 川の指導者養成等

RAC アシスタントリーダー養成講座は 10 講座、リーダー養成講座が 11 講座、インストラクター養成講座が 1 講座開催された。コロナ後に川遊びなどが再開されると同時に、水難事故へのリスクが高まっていくことが想定される。身の守り方を伝えるためには川の指導者数を増やすことが必須である。まずは川の知識を広く認知してもらい、RAC の発行する資格の優位性を理解してもらう必要がある。



写真 2. 「RACリーダー講習会」京都府由良川

### (1) RAC 指導者講座の開催

各指導者養成団体で必要とされる川の指導者の養成講座を、全国各地の河川において展開した。RACリーダー養成講座については全国各地で 11 回開催した。今年にはインストラクター講座を福井県で 1 講座開催した。また、アシスタントリーダーについては 10 回開催した。インストラクター養成講座は 5 年ぶりの開催で、3 名が新たにインストラクターとして認定された。



写真 3. 「アシスタントリーダー講座」福井県

【各種講座開催及び修了状況】

種別 年度	RAC アシスタントリーダー（基礎講座）		RAC 学校リーダー※1		リーダー		インストラクター（Ⅰ）		コーディネーター（インストラクターⅡ）		トレーナー	
	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数
H13(2001)	(12)	(966)	-	-	5	52	0	0	0	0	0	0
H14(2002)	(3)	(83)	-	-	15	528	5	126	0	0	暫定	24
H15(2003)	(4)	(10)	-	-	24	446	3	52	0	0	1	17
H16(2004)	(1)	(14)	-	-	26	387	3	32	0	0	2	16
H17(2005)	(0)	(0)	-	-	27	266	3	25	0	0	1	14
H18(2006)	(2)	(49)	-	-	27	207	3	22	1	4	1	9
H19(2007)	(6)	(141)	-	-	25	376	0	0	0	0	0	0
H20(2008)	(3)	(38)	-	-	26	319	2	0	0	0	0	0
H21(2009)	(4)	(22)	-	-	33	334	4	48	0	0	0	0
H22(2010)	(1)	(12)	-	-	35	338	2	22	2	6	1	6
H23(2011)	(0)	(0)	-	-	33	287	5	43	0	0	1	4
H24(2012)	(3)	(26)	-	-	26	234	3	12	1	7	1	4
H25(2013)	1	7	-	-	18	168	0	0	0	0	1	1
H26(2014)	2	25	3	25	14	131	0	0	2	10	1	2
H27(2015)	5	85	1	10	16	124	0	0	0	0	1	6
H28(2016)	7	78	0	0	14	127	0	0	0	0	0	0
H29(2017)	13	85	1	13	13	108	1	2	0	0	0	0
H30(2018)	10	56	1	0	13	105	0	0	0	0	1	5
R1(2019)	10	70	0	0	14	86	0	0	0	0	1	5
R2(2020)	6	26	0	0	8	62	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	6	33	0	0	7	41	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	10	111	0	0	11	69	1	3	0	0	0	0
計	109	2032	6	48	432	4889	36	390	6	27	13	113

※1 RAC アシスタントリーダーは H25 までは基礎講座の講座数及び修了者

(2) 付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

昨年に引き続き令和4年度はコロナ禍のため開催は少なく、専任講師養成に関してはEボート指導者専任養成講座のみが行われた。インストラクター講座との並行開催のため、効率の良い指導者養成が行われた。

種別 年度	水辺のリスク マネジメント講座		水辺のリスク マネジメント 専任講師養成		水辺のレスキュー 講習		水辺のレスキュー 専任講師養成		Eボート指導者		Eボート指導者 専任講師養成	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20(2008)	10	180	4	67	0	0	0	0	0	0	0	0
H21(2009)	6	64	0	0	3	18	5	24	3	36	4	27
H22(2010)	2	28	0	0	3	16	0	0	3	26	0	0
H23(2011)	4	51	0	0	8	77	1	3	6	68	1	3
H24(2012)	3	31	0	0	5	29	0	0	9	90	3	9
H25(2013)	4	42	0	0	5	41	0	0	11	115	2	10
H26(2014)	4	18	0	0	2	27	0	0	8	71	0	0
H27(2015)	2	11	0	0	1	12	0	0	14	84	0	0
H28(2016)	3	21	0	0	1	16	2	0	6	38	0	0
H29(2017)	1	21	0	0	2	31	3	16	5	41	0	0
H30(2018)	2	19	0	0	1	11	0	0	4	23	0	0
R1(2019)	1	6	0	0	3	23	0	0	3	16	0	0
R2(2020)	0	0	0	0	1	11	0	0	1	6	0	0
R3(2021)	4	23	0	0	1	11	0	0	6	37	1	5
R4(2022)	1	9	0	0	2	28	0	0	5	30	1	5
計	47	524	4	67	38	351	11	43	79	652	11	42

種別 年度	水辺のファースト エイド講習		水辺のファースト エイド講習 専任講師養成		RAC 水辺の生き 物講習会		学校連携コーディネーター養成講座						
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	(基礎課程)		(応用課程)		(専修課程)		
講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H24(2012)	1	15	1	(11)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H25(2013)	4	42	0	0	1	3	1	16	1	9	0	0	0
H26(2014)	3	0	1	0	0	0	3	34	0	0	0	0	0
H27(2015)	1	20	0	0	0	0	1	10	1	3	0	0	0
H28(2016)	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	1	3	0
H29(2017)	0	0	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0	0
H30(2018)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0
R1(2019)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0
R2(2020)	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	85	1	(11)	2	5	9	81	2	※12	1	3	0

※修了実習待ち含む。

年度	種別	シャワークライミング講座	
		講座数	修了者
H30(2018)		-	-
R1(2019)		-	-
R2(2020)		1	40
R3(2021)		3	25
R4(2022)		0	0
計		4	65

### (3) 付加資格について

今年度はEボート指導者講座が5講座、Eボート専任講座が1講座、レスキュー講座が2講座開催された。コロナ禍の影響が多様な講座の開催に至らなかったが、各開催団体の力により受講者数は維持された。インストラクター講座との並行開催、プログラム内容を工夫して日数を減らし、参加への負担を低減することで受講者数を確保できたものとする。



写真 4. Eボート指導者講座 (小野湖)



写真 5. RACレスキュー講座 (遠賀川水系珍田貯水池)

#### 4. 全国大会等

##### (1) 第21回川に学ぶ体験活動全国大会 in 東京

□ 開催日時：令和4年10月29日（土）・30日（日）

□ 場 所：29日（土）会場 東京都千代田区 日本大学理工学部 駿河台校舎1号館  
30日（日）エクスカージョン

①神田川・日本橋川・江戸城コース

②旧中川・北十間川コース

③荒川ロックゲート体験コース

④都心でラフティング体験コース（カヌースラロームセンター）

##### □ 概 要：

コロナ禍で一昨年は延期、昨年はWEB開催になっていたが、令和4年度全国大会については対面で開催することができた。会場は東京都千代田区の日本大学理工学部の駿河台校舎。行政や一般の方のほか学生の参加もあって総勢120名の方に参加していただいた。

基調講演では竹村公太郎氏を招き「江戸・東京の誕生」と題して、家康はなぜ、江戸に都を作ったかなど、川の話と関連付けて面白くお話しをしていただいた。

また事例発表では昨年の全国大会の開催地でもある小川原湖自然楽校の活動や琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、宮崎県の「リバーパル五ヶ瀬川」など、各地での継続的で熱心な取り組みを共有した。

琵琶湖の活動では、病気のある子どもたちが琵琶湖で水遊びを楽しみ「みんなが湖の子、自由で平等」をモットーとしてRACリーダーが1人でできる小さな水辺遊びを続けていることに勇気を頂いた。

パネルディスカッションでは、東京の水害対策・防災教育、川遊びと水難事故・ライフジャケット着用などについて、また、東京の川のある風景～川瀬巴水の浮世絵について学ぶ、水都東京の舟運・歴史・観光など様々な方からパネラーとして発表頂いた。

来年度の全国大会は福井県越前若狭の予定であり、現地の実行委員の方々へフラッグの受け渡しが行われた。

翌日は4つの会場に分かれての下記エクスカージョンを実施した。東京での体験を地域に持ち帰り、活動する際の参考などにしていただければ幸いである。



写真6. 全国大会集合写真



① 神田川・日本橋川・江戸城コース

テーマは歴史・文化・防災としてオープン型の動力船で 90 分の都心の川と運河の歴史や遺構を学び、楽しんだ。ガイドについても、丁寧にかつ面白く話して下さい、参加者の方々は引き込まれていた。(参加者 32 名)



写真 7. 神田川・日本橋川・江戸城コース

② 旧中川・北十間川コース

テーマはSDGs・観光・防災として旧中川の平井船着き場から旧中川を E ボートで乗船体験を行った。旧中川から荒川ロックゲートを超えて荒川までクルーズをし、ロックゲートにて江東デルタ地帯の治水対策や防災の重要性を再確認した。(参加者 20 名)



写真 8. 旧中川・北十間川コース

③ 荒川ロックゲート体験コース

テーマは防災・歴史・観光ということで国土交通省のあらかわ号で荒川ロックゲートを通船して荒川を上流に向かい、船の中では江東デルタ地帯や荒川の治水対策・防災についての話や荒川に架かる鉄橋のかさ上げ事業などの話をして頂いた。(参加者 18 名)



写真 9. 荒川ロックゲート体験コース

④ 都心でラフティング体験コース

東京オリンピックのカヌー競技用施設として建設された江戸川区葛西のカヌースラロームセンターを活用した。テーマは自然体験への誘い。体験教育として、都心でもラフティング体験ができることを広報するとともに、RACの指導者養成や体験活動としての活用など東京オリンピック施設の有効活用についても検討した。(参加者 20 名)



写真 10. 都心でラフティング体験コース

(2) 第21回RACフォーラム等の開催

日時：2023年3月4日（土）

場所：東京都江東区 東京海洋大学 越中島キャンパス

コロナ、DX、GX、SDGsなどの激変していく世の中で改めて見直されている自然と過ごす生活。今回のフォーラムでは、RACの活動等での経験を活かして将来的に人材と組織のアップデートを行うことを座談会形式で検討した。



写真 11. 企画総務組織強化部会懇談会

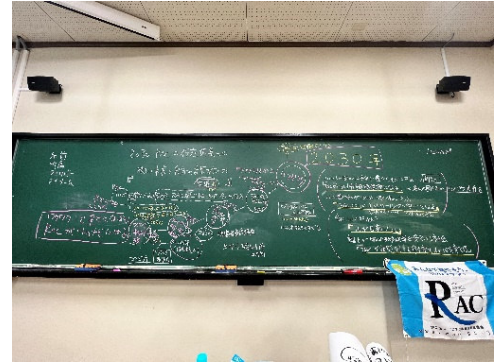


写真 12. 企画総務組織強化部会板書

「RAC が川の日常性を先導する」とか、「ワクワクで幸せになるために RAC が川のナビになる」「川の認知度 100% (2028年)」、「E ボート大会復活」「スポンサーをつける (助成金からの脱却 (2027年))」「RAC 内外の情報共有システム確立 (2025年)」「ケーススタディを提示する (2023年)」などのロードマップについての提言も共有した。

5. 調査検討事業

(1) 調査検討業務

令和4年度の河川事務所からの事業は1事業のみであったが、その事業も開催間際でコロナの影響で中止になってしまった。しかしながら、河川財団からの受託事業で6月にレスキュー3講座とRACのリスクマネジメント講座を開催した。また、渡良瀬遊水池でEボート指導者講習会を開催した。オンライン教材・動画などの検討及び作成の協力を行った。実際に多摩川の軍畑付近で景観撮影を行い、荒川長瀬に移動して上流の流れなど疑似体験のラフトボート撮影を行った。長瀬で実際のマネキンを使用してのライフジャケット着用推進に関する動画撮影の安全管理を行った。



写真 13. 長瀬レスキュー3講座

6. 広報・普及活動

(1) 川育ライフジャケット認定制度の普及

これまで我が国には「川遊び用のライフジャケットとして推奨できる安全基準」や「試験・認定制度」が存在していなかったが、RACでは「川という自然環境下での体験活動に適した安全基準として、「RAC川育ライフジャケット認定ガイドライン」を平成26年(2014年)に関係各機関の協力のもと構

築している。令和5年3月現在、12種類の製品が認定を受け、水辺シーズンを中心に全国各地の大型スポーツ用品店や、ホームセンター等で提供が継続している。

民間団体が近年制定した新たなライフジャケットの基準やメーカーの動向も注視しつつ、RACの認定ガイドラインの見直し検討作業に着手した。

## (2) 広報活動

- ・メールマガジン「RAC NEWS」を随時回発行した。また、Facebookなども活用して情報発信を行った。
- ・RACホームページのリニューアル検討をするとともに随時更新した。

## (3) 川の指導者の資機材

より安全な水辺の体験活動を普及するために、川遊びに特化して開発したライフジャケットの普及を行った。また、令和4年度はグラブナー社のEボートが2艇販売できた。

レンタル業務では、コロナ禍の影響で大幅にダウンしている。2018年度にくらべて4分の1程度に落ち込んでいる。川の指導者団体も活動が出来ていない状況であると考え。しかしながら2020年度よりは2021年の方が少し延びている。このまま、コロナが落ち着けば川に子どもたちや人々が行くことが予想されて大幅にレンタルが増えると考えられる。

### 【RAC 機材一覧】

No.	資機材名	数	単位	備考
1	ライフジャケット (幼児用)	51	着	
2	ライフジャケット (低学年用)	122	着	
3	ライフジャケット (子ども用)	486	着	
4	ライフジャケット (大人用)	225	着	
5	ライフジャケット (プロ用)	14	着	
6	ヘルメット (子ども用)	95	個	
7	ヘルメット (大人用)	154	個	
8	スローロープ (15m)	10	本	
9	スローロープ (20m)	34	本	
10	Eボート	11	艇	グラブナー社Gタイプ
11	ポンプ	16	個	
12	パドル	140	本	一部スチール
13	ウエットスーツ	71	着	

### 【R4 レンタル状況】

PFD	ヘルメット	スローバック	Eボート
1246	187	17	13

※自主事業利用含

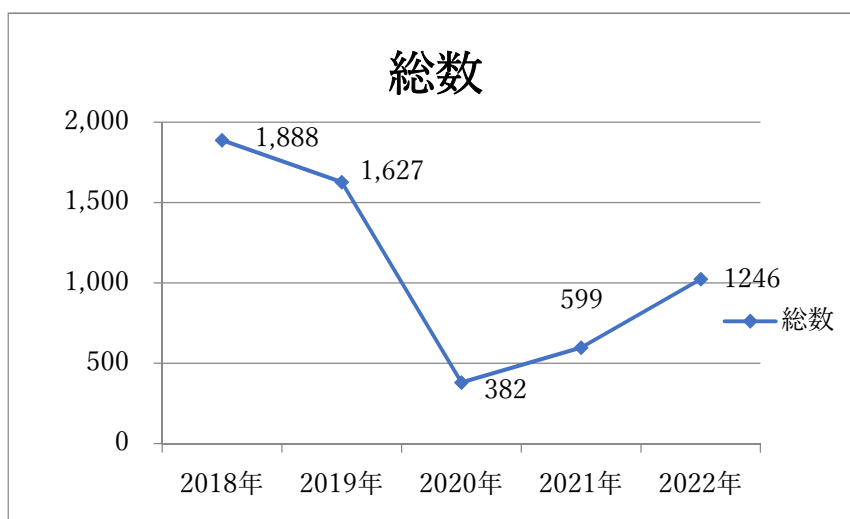


表1. ライフジャケットレンタル状況

## Grabner社製 Eボート



定員 10名程度 (最大積載重量 約1.0t)  
 サイズ 縦 6.5m 横 1.4m  
 (収納サイズ 約0.9m×0.6m×0.4m)  
 重量 約60Kg カラー 赤×黒  
 部品構成 本体(3気室)+シート6コ  
 主要素材 ゴム製のインフレータータイプ  
 (1100 dtex EPDMゴム)

## 7. その他

### (1) 水辺体験イベント等

令和4年度もコロナがだいぶおさまり各地域で活動が行われているがまだまだ、本来の数には程遠いと感じる、今年も東京ではミズベリング関連で江東区の汐濱運河での令和4年10月21日にEボートレース大会のサポートを行った。4の団体が参加して順位を競っていた。

また、巣鴨小学校の子どもたち 46 名が旧中川で E ボート乗船体験を行い、荒川ロックゲート通船体験を行った。また、埼玉県のだろんこ保育園からの依頼でアシスタントリーダー講座を開催し 30 名の指導者が育成された。



写真 14. 汐濱運河 E ボートレース大会

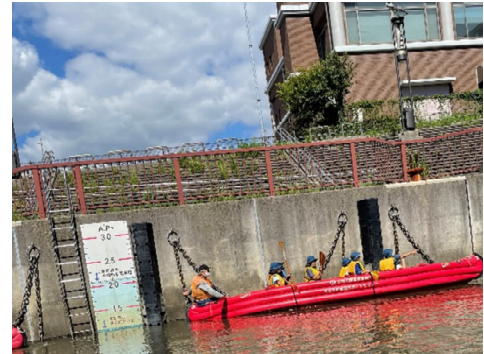


写真 15. 巣鴨小学校ロックゲート体験

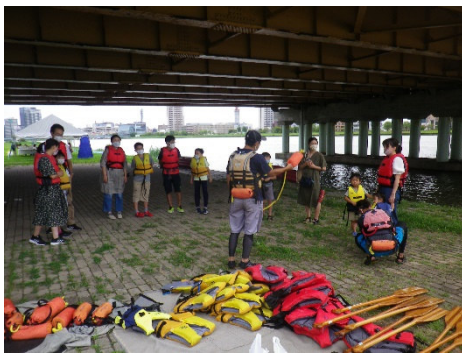


写真 16. 信濃川 E ボート乗船会



写真 17. だろんこ保育園

## (2) 河川協力団体

・荒川下流河川事務所・利根川下流河川事務所の河川協力団体関連事業として、荒川（旧中川）では E ボートクルーズの運行を行った。今年度は利根川下流では何も活動をする事が出来なかった。